

宮城県「道の駅」検定 テキスト

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
宮城-1	七ヶ宿		七ヶ宿町	国道113号線	1993年(平成5年)宮城県第1号としてスタートした「道の駅」は2014年(平成26)年4月、広大な駐車場のある現在地に移転オープンした。宮城県最大の七ヶ宿ダム湖畔にあり、羽州街道の歴史やダム水没前の七ヶ宿の様子を伝える「水と歴史の館」が隣接している。今の場所にはダム湖と約24haある自然休養公園が広がり、春には一面の桜、秋には山々の紅葉と、季節によりさまざまな表情を楽しむことができる。また、ダムの中央には、高さ77mの噴射能力がある大噴水が設置されている。これも本来は水質保全を目的に設置されたものであるが現在では観光の一つとして毎年4月から11月まで季節や時間によって装いが変わる噴水的美を楽しむことができる。 売店では山菜やキノコ、野菜、果物、ハチミツ、加工品などを販売しており、七ヶ宿の特産品を使ったオリジナルソフトクリーム・季節ごとのソフトクリームや笹ゆべしが人気だ。また、レストランで提供している「七ヶ宿ダム湖カレー」や「蔵王担々麺」、白石名物の温麺(うーめん)が食べれると好評だ。 七ヶ宿という町名は、江戸時代、ここを通っていた羽州街道の宿場がこの地域に7か所(上戸沢、下戸沢、渡瀬、関、滑津、峠田、湯原)あったことから、そう呼ばれるようになった。 2019年(令和元年)から2020年(令和2年)にかけて、宮城県全市町村に「みやぎ応援ポケモン」のマンホール蓋が設置され、七ヶ宿町には「道の駅」内に「ラブラス」と「ビーダール」が描かれたマンホール蓋が設置されている。
宮城-2	津山	もくもくランド	登米市	国道45号線	1996年(平成6年)に登録された宮城県で2番目の「道の駅」。津山は日本三大虚空蔵尊のひとつとされる柳津虚空蔵尊と、国指定重要文化財の不動明王が置かれている横山不動尊があるなど、歴史にゆかりの深い町だ。 昔から杉の名産地として知られていて、地元産杉材を使った杉矢羽模様の木工品を展示販売する「クラフトショップもくもくハウス」が自慢の「道の駅」で、ここでは職人手作りの木工品が千点以上展示販売されている。店内は木の香りにあふれており、2021年(令和3年)放送のNHK朝の連続ドラマ「おかえりモネ」でも取り上げられたこともある商品を眺めているだけでも楽しめる。 また、地域の特産品「油麴」の販売もしており、お食事処・木里口(きりぐち)で名物「もくもく丼(油麴丼)」を提供している。油麴は、宮城県北部の登米地方に昔から伝わる食材で、小麦粉に含まれるタンパク質成分のグルテンを練り上げて棒状にし、植物油で揚げたもので、一般的なお麴は長さが25～26cm位でフランスパンのような形をしている。カットしたものを、丼の具、煮物、炒め物などで食べることができる。産直コーナーでは、季節の野菜をはじめ米やつと納豆、餅や漬物などの加工品が揃っている。 敷地内には農村公園があり、大型遊具や木製の遊具が家族連れに大人気だ。
宮城-3	三本木	やまなみ	大崎市	国道4号線	1995年(平成7年)に登録された県内唯一の国道4号に面した「道の駅」。車で10分ほどの所には、春に200万本の菜の花、夏には約42万本のひまわりが丘一面に咲き誇る6haの広さを誇る「ひまわりの丘」があり、「道の駅」もひまわりソフトクリームやひまわりかりんとうなどを販売している。また「駅酒三本木」というオリジナル日本酒を限定販売している。地元産ササニシキの1等米を使用した純米大吟醸で、「伯楽星」「愛宕の松」などで知られ、世界酒蔵ランキング3年連続第1位を受賞した新澤醸造店(本社・三本木北町)が醸造した。コメのうまみがしっかり溶け込んでマスクメロンに似た甘い香りが漂う、フレッシュ感あふれる味わいが特徴で大人気となっている。 明治時代の初めから昭和の中ごろまで、この地域では石炭の一種である亜炭鉱があり、盛んに掘り出されていた。そのため「道の駅」には「三本木亜炭記念館」があり、当時の坑道の様子再現をしている。採鉱風景や採掘道具の展示、重さ10tという日本一大きい亜炭塊の展示などがある。
宮城-4	路田里はなやま(ろうたりにいはなやま)	自然薯の館	栗原市	国道398号線	1995年(平成7年)に登録された「道の駅」。江戸時代、仙台藩と秋田藩の藩境にあった検問所、寒湯(ぬるゆ)番所をイメージした建物である。隣接する国道は秋田県の湯沢市へと抜ける小安街道だったところ。 「路田里」の由来は、道路の「路」、田園の中の田舎の施設の「田」、山里やふる里をイメージする「里」を組み合わせた造語で、周遊や回遊を意味する「ロータリー」も表現している。「はなやま」は市町村合併前の旧村名の花山村より取ったものだ。 周辺には温泉も多く、愛称である「自然薯の館」は地域の特産品である自然薯のことだ。自然薯は、日本原産の野生種の山芋のことで、市販されているナガイモとは種類が違う。花山地区では無農薬による人工栽培で歳月をかけて生産しており、主力の特産品となっている。自然薯そのものを購入することもできる他、レストランでは麦飯、とろろ汁、岩魚(焼きor揚げ)、味噌汁、小鉢、おしんこがセットの定食やざるそば、とろろ汁が人気となっている。 山里にある「道の駅」のため、地元産の山菜や立派なサイズのキノコが豊富で「道の駅」のスタッフもおすすめ。小さいながらも地元で愛され長く続いている栗原市内の造り酒屋の地酒も豊富に販売されている。

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
宮城-5	大谷海岸	はまなす ステーション	気仙沼市	国道 45号線	1996年(平成8年)登録の「道の駅」。東日本大震災で被災し、2021年(令和3年)に大規模リニューアルオープンした。目の前には大谷海岸が広がっており、2階の展望テラスから眺める太平洋がドライブの疲れを癒してくれると評判だ。 震災前はマンボウを飼育していたことから、「道の駅」のメインキャラクターにもなっており、新設された看板はマンボウの形となっている。またプロジェクションマッピングでマンボウが泳いでいる姿も投影しており楽しめる。 施設内では、手軽に楽しめるファストフード「はまカフェ」とカフェテリア「umicoco」がある。オリジナルサメかつバーガーやシャークナゲット、トッピングが選べるジャケットポテトは、若い人にも人気だ。「道の駅」おすすめは、上質な甘さの濃厚バニラソフトにはちみつ漬けのふかひれソースを添えた、味と食感が楽しめる「ふかひれソフト」。ほかにも海苔の佃煮入りの「ほんのりソフト」などいろいろな味のソフトクリームが楽しめる。しっかりと食事をしたい時にはカフェテリア umicocoで気仙沼のおいしい魚料理を堪能できる。中でもおすすめは「気仙沼極上バラ寿司」。新鮮な気仙沼の鮎の赤身、雲丹、海老、メカジキ、カニ、イクラなど新鮮な具材がたっぷりのったバラ寿司は満足の一品。他にも焼き魚や煮魚が選べる気まぐれ定食、ふかひれラーメンなどこだわりのメニューが並ぶ。 人気アニメ「君の名は。」「天気の子」でおなじみの新海誠が脚本・監督した「すずめの戸締り」に、主人公が雨宿りをするための休憩スポットに「道の駅」がモデルとして登場、聖地にもなっている。
宮城-6	おおさと	大郷ふるさと プラザ	大郷町	県道 9号線	1996年(平成8年)登録の「道の駅」、2018年(平成30年)にリニューアルして、店内のイメージを一新、取り扱う商品の数と量が充実した。大郷町広報誌によるとリニューアル後の来場者数はリニューアル前と比べて46%増で、店の玄関前には赤いトラクターとずんだ型のベンチを、店内には2台の軽トラックを設置、荷台や商品棚には自慢の産直野菜をびっしりと並べ、健康野菜市場とうたってみんなの食生活を支えている。 宮城の名物ずんだの商品もずらりと並ぶ他、仙台市内のお茶メーカーであるお茶の井ヶ田・喜久水庵のお菓子も売っており、宮城、仙台を味わえる。 名物はエジプトが原産のモロヘイヤという葉物野菜で、大変栄養価が高くビタミンやミネラルが多く含まれている。それを練りこんだモロヘイヤソフトは「道の駅」のおすすめだ。モロヘイヤうどんは、夏場には緑色の麺が目にもさわやかで食欲をそそる。フードコート「おおさと食堂」では「モロトロ丼」として売り出し中。手軽に食べられるスーパーフードなのだ。 2階は無料で遊べるキッズスペースもあり、週末にはフリーマーケットイベント開催をするなど人気のある「道の駅」だ。ポケモンのマンホール蓋が設置されていて「ラプラス」と「チュリネ」が描かれている。 宮城県内の品物はもちろん、東北六県から全国のおいしいものを集めた、目で見ても楽しめる駅だ。
宮城-7	米山	ふる里センター Y・Y	登米市	国道 346号線	1998年(平成10年)第14回登録の「道の駅」。 仙台市と気仙沼市の中間地点にある「道の駅」には豊かな大地で育った農産物・地場産品が豊富で、一年中フレッシュな産品が並んでいる。特に米山町産イチゴ・もういっちは、登米市米山町で栽培される、2008年(平成20年)3月に品種登録された宮城県オリジナルのイチゴ品種で、大粒で甘酸バランスが良く、果肉がしっかりしていて日持ちがよいのが特徴。仙台方面からわざわざ買い求めに来るお客様がいるほどの人気である。また、メロンはあまり市場には出回らないご当地メロン、網目模様の美しい「アールスメロン」で大変人気である。 「道の駅」おすすめは、期間限定のイチゴソフトクリームだ。地元農家から運んだイチゴをミキサーにかけ作っているので、香り、味ともにフレッシュだ。季節ごとに抹茶やパッションフルーツなどのソフトクリームも評判。また、地元産のダイズで作る「郷の香味噌」は、ダイズとコメ(ひとめぼれ)だけで作られたこだわりの味噌でまろやかな味わいが人気だ。 食事は、郷土料理のはっと汁やご当地グルメの油麴丼が楽しめる他、辛さを辛口と中辛から選べるチキン・ポーク・ハンバーグの「横綱スーパカレー」が人気メニューとなっている。商品名にもなっている横綱は「道の駅」の前に堂々と立つブロンズ像の米山町中津山出身の第三代横綱・丸山権太左衛門(まるやま ごんたざえもん)で、江戸相撲の横綱を務めた力士だ。 春には1haの敷地に60種類10万株のチューリップが咲き誇る「チューリップまつり」が道の駅西隣園場で開催される。(4月下旬)

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
宮城-8	あ・ら・伊達な道の駅		大崎市	国道47号線	2000年(平成12年)12月8日に登録、国道47号に面した「道の駅」。 年間300万人が訪れる日本有数の人気の「道の駅」だ。大崎市は宮城県の県北に位置し、仙台からも車で1時間、「道の駅」の近隣には名湯鳴子温泉郷もあり、観光客から地元の方まで幅広い層に人気がある。 岩出山は伊達政宗公が青年期を過ごした場所でもあり、岩出山城址や有備館(仙台藩の藩校の一つ)などの歴史の香り豊かな城下町だ。有備館とその庭園は現在残る最古の学問所として国の指定史跡になっている。 店内には地元産の野菜や特産品、お惣菜などが所狭しと並んでいる。中でも地元名産の「しそ巻き」が並ぶのが目に入る。練った味噌にゴマやクルミ、唐辛子などが入り、シソで巻いて揚げたものだが、作り手によってオリジナルの味になるため何種類も並んでいて選ぶのに迷うほど。また鳴子の名物「栗だんご」も置いている。栗がまるごと入った団子にみたらしのあんがかかった地域の特産品だ。本州での常設販売はここだけのロイズチョコレートも人気で、屋外ではソフトクリームも食べられる。 また駅の外にあるステージでは週末になると多くのイベントを開催しており、地域の賑わいづくりに一役買っている。 4月～10月までの毎週土・日は、「道の駅」特設会場にて「熱気球の係留搭乗体験」ができ、世界農業遺産に認定された大崎平野を気球に乗って見渡すことができる。
宮城-9	林林館	森の茶屋	登米市	国道346号線	2003年(平成15年)8月8日にオープンした第19回登録の「道の駅」。国道346号に面している。 「道の駅」は本館と産直・レストランの森の茶屋の二つの施設があり、本館は地元産木材をふんだんに使った2階建て12角形の作りをしている。「瑞樹窯」と「夢想同人窯」で焼き上げた陶芸品や木工品、草木染のバッグ、小物を展示販売している。2018年(平成30年)にユネスコの無形文化遺産登録された「米川の水かぶり」の衣装展示などもある。「米川の水かぶり」とは登米市東和町米川の五日町地区に伝わる火伏せ行事で、わらで編んだ装束をまとい顔には炭を塗って家々の屋根に水をかけ、火伏を祈願するというもの。それにちなんだ水かぶりで使用する桶の形で米粉を使用したサクサクの「米川の水かぶりクッキー」を「道の駅」では販売している。 森の茶屋では地元特産の山菜やキノコ、根菜類などの野菜などを販売しており、山の恵みを楽しむことができる。餅菓子や団子といった和菓子なども数多く並んでいて人気だ。レストランでは「あぶら麩丼」や「はっと汁」といった登米市の地元の味を楽しむこともでき人気となっている。 また、近くの北上川支流の鱒淵川では国の天然記念物であるゲンジボタルの生息地もあり、自然豊かな里山にある「道の駅」であることを実感できる。
宮城-10	上品の郷(じょうぼんのさと)		石巻市	国道45号線	2004年(平成16年)8月9日に「道の駅」に登録、2005年(平成17年)3月26日に開駅した「道の駅」。関・空間設計の設計であり、日本建築学会東北支部から同年度の東北建築賞作品賞を受賞した。「上品(じょうぼん)」とは極楽浄土を意味する言葉で、「道の駅」の名前は石巻市のほぼ中央にある標高467mの上品山から名付けられた。 「道の駅」の敷地外にあった路線バスの停留所を敷地内に移設したり、バスの待合所を「道の駅」内に設けるなどが評価され、2017年度(平成29年度)に国土交通省から地域交通拠点部門モデル「道の駅」に選定された。 全体が非常に大きな施設で、その中心は、旬の野菜や海産物の地場産品を販売する農産物直売所・ひたかみだ。地元石巻市産の野菜をはじめ、餅、お惣菜、水産加工品、花、米、菓子など観光客だけではなく地元のお客さんにも愛される品ぞろえだ。「道の駅」のおすすめは「河北セリ」で、北上山地の南端にあたる石巻市河北地区で栽培されている。豊富な伏流水を利用し、ほ場(セリ田)の畦畔を高くして水深を確保することで、茎葉部が長いセリになるのが特徴だ。栽培の歴史は古く、約300年前の江戸時代には栽培が始まっていたと伝えられており、10月～2月に出荷される秋冬セリの「根セリ」と、4月～5月の芽吹いた新芽を刈り取った「葉セリ」の2つの形態で出荷している。他にも、採取時期が6月～12月の殻がべっこう色に輝く「べっこうしじみ」がある。ふっくら柔らかな身が特徴で、泥臭さがなく濃厚な味で人気がある。また、毎日蒸したてを提供しているロングセラーの一口サイズの「上品の郷まんじゅう」も人気だ。フードコートには2つの店舗があり、「地場産食材」にこだわり、できる限り石巻圏内の素材にこだわった食を提供している。昔から料理にサバだしや鯖節を使う食文化があった石巻の北部飯野川地区の食文化から誕生した魚介系ラーメンや和・洋食・中華とアジアンフードのコラボを堪能できる。 2022年に増設された「お郷カフェ」には、4つの店舗があり、トマトとイチゴを贅沢に味わえるスムージーや季節のフルーツサンド、石巻名物「どぶ漬けから揚げ」、自家焙煎の挽きたてハンドリップ珈琲、雄勝湾で採れた新鮮な魚介類を使った浜焼や旬の食材を使ったおにぎり等、石巻の食を気軽に手軽に満喫できる。 宮城県内唯一の含鉄塩化物泉である「ふたごの湯」は、週ごとに入れ替わる大浴室が2つ、豊富な鉄分と塩分でよく温まりお風呂よりほど温かさが持続するので観光客や地元の人たちに喜ばれている。

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
宮城-11	みなみかた	もっこりの里	登米市	県道 1号線	2004年(平成16年)第20回登録の、登米市南方町の「道の駅」。「道の駅」の愛称「もっこりの里」は「もっこりと盛り上がるように」の思いで付けられたもので、盛りだくさんの野菜に「びっくり」、美味しいものを食べて「ほっこり」、元気がでる「もっこり」がコンセプトの「道の駅」だ。 「道の駅」のおすすめの一つは「ごぼうチップス」。フレーバーはガーリック、しょうゆ、しお、しょうが、あらびきしょう、カレー、チキンコンソメ、ビーフコンソメの8種類で、おやつ・毎日のおつまみ・お土産にもぴったりの一品。野菜の押しは「もっこりニラ」で、葉が厚く食べ応えがあり、甘くて香りのよいニラだ。「道の駅」内のもち工房で作られているつきたてもっこりニラ餅は格別。ずんだ餅・あんこ餅・くるみ餅などがあり、餅のオードブルも受け付けている。「道の駅」に隣接している「桜久楽食堂」は、店内に大きな千本桜のパネルがあり年中桜満開である。昔なつかし昭和の味「中華支那そば」や「ビックリやわらかかつ丼」、「ビックリやわらかかつ定食」等を提供している。野菜や米は登米市産を使用している。 「道の駅」から車で20分ほど行くと、広々とした田園風景が魅力な伊豆沼・長沼がある。そこにはマガン、オオハクチョウ、ノスリ、ツグミ、スズメなどの野鳥を見ることができる。伊豆沼は、日本で2番目にラムサール条約指定地域となり、現在は観察水槽や野鳥を紹介するバードギャラリーや、沼に生息する生物や植物、野鳥などを紹介する「伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター」がある。長沼には「長沼フォートピアトヨテツの丘公園」があり、南側には高台にそびえ立つ、高さ21.22m・羽の直径23.7mのオランダ風車「白鳥」がシンボルだ。公園内には、長さ111mのローラーすべり台や200人収容可能なキャンプ場、レンタサイクルなどもあり、週末になるとたくさんの家族連れでにぎわう。
宮城-12	村田	歴史と蔵とふれあいの里	村田町	県道 14号線	2010年(平成22年)、当時あった村田町物産交流センターを「道の駅」として第33回に登録された。江戸時代、この地域で作られる紅花(ペにばな)は最上級品と評価され、江戸と奥羽山脈を越えて山形まで運ばれ、最上川を下って京都に届けられた。村田はその紅花で栄え、多くの蔵や豪華な門構えが残っていて、「みちのくの小京都」ともいわれる「蔵の町村田」となった。「道の駅」は蔵の町をイメージした外観になっている。 村田町の特産品となっているソラマメは、70人ほどの農家が生産しており、そのソラマメを使った米粉麺やうどんは「道の駅」のおすすめである。他にも、加工品として、アイスクリームや大福などのスイーツにも使われている。朝採りの新鮮野菜や漬物、お米など豊富な旬の地場産品を取りそろえている。「レストラン城山」では、村田町オリジナルのてんぷらやかき揚げののったそら豆うどんや、刺身・天ぷら・そら豆うどんがセットになった城山定食など食べることができる。 毎年「道の駅」ではイベントと旬野菜カレンダーを配布、一番人気は6月中旬に開催する「そら豆まつり」だ。収穫の最盛期を迎えた初夏の味覚、ソラマメを多くの人に知ってもらおうと行うもので、「道の駅」では詰め放題のコーナーが人気で、ソラマメを袋にあふれるように詰め込む人でにぎわう。また、焼きたてのソラマメの炭火焼きも無料でふるまわれ、毎年多くの人でにぎわう。 「道の駅」のある村田町は、レトロな蔵の町並みを楽しんだり、国内で唯一、国際公認コースを複数保有する総合モータースポーツ施設「スポーツランドSUGO」があり、様々な年代の方が楽しむことができる。
宮城-13	三滝堂 (みたきどう)		登米市	国道 398号線	2015年(平成27年)第44回登録、2016年(平成28年)4月オープン「道の駅」。高速道路の無料区間には、全国的にサービスエリア(SA)はほとんどないが、三陸自動車道の三滝堂インターチェンジの敷地内に建ち国道398号からも利用できる。付帯施設としてキャンプカーで泊まれるRVステーションやドッグランも設置している。内陸部である登米市と沿岸部の三陸地域の観光総合窓口の役割の他、登米ブランドをはじめとした特産品や農産物を販売している。 「道の駅」が運営しているパン工房で焼いている「登米産米粉使用オリジナルホテルブレッド」は、トーストすると外はカリッと、中はもちもちとした食感で「道の駅」スタッフもおすすめの一品。レストランでは登米市産の油麴を使った「油麴丼」や「はっと定食」がおすすめ。「はっと」とは、登米市の郷土料理で、小麦粉を水でねって熟成させたものを薄くのばして茹で上げたもの。醤油仕立ての汁で茹で上げたり、お湯で茹でて、あずき、ずんだ、ジュウネン(エゴマ)などに絡めたりする。出汁や具材は登米地方の中でも地域や家庭により異なる。 「道の駅」三滝堂のある登米市は、2005年(平成17年)、登米郡8町と本吉郡津山町が合併してできた市である。宮城県北東部にあり、岩手県一関市と境を接する。登米(とめ)は、「とよま」とも読み、アイヌ語の「トイオマ(食べられる土のあるところ)」が語源とされている。その後は、江戸時代から米どころとして知られ、北上川から運河と海を使って廻船問屋が運び、江戸へとお米が登って行く様子から「登米」の由来になったとも言われている。

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
宮城-14	おおさき		大崎市	国道 108号線	2019年(令和元年)7月にオープンした第50回登録の「道の駅」。古川地区の町なかに作られた都市型の「道の駅」。国連の食糧農業機関(FAO)が認定する制度「世界農業遺産」に国内で9番目、東北・北海道で初めて認定された「大崎耕土」。その特徴は、宮城県大崎地方の平野に広がる水田農業地帯で、1600年代から伝わる巧みな水管理や伝統的な農文化、水田の害虫を駆除する生き物との共生や渡り鳥の飛来、水田と屋敷林が織りなす豊かな景観などである。このような「大崎耕土」で育った新鮮で安心・安全な農畜産物や加工品の販売、それらの食材をふんだんに使用したカフェメニューが売りとなっている。 お食事処の「あじわい亭」では、「道の駅」一押しの「小倉クリームソフト」。濃厚なミルクソフトに小倉あんがトッピングされており、大満足の一品。大崎産野菜をふんだんに使った「産直野菜の麵味噌ラーメン」は、赤味噌系のスープに麵の甘味とコクが味わえる、ボリューム満点の味噌ラーメンで人気である。 「道の駅」は、地区中心部にあることから、防災拠点施設に位置付けられている。避難場所の提供、トイレや飲料水や一時的な食材提供、道路情報や被災情報などの提供、救援物資の運送拠点・中継施設の提供、関係機関への活動拠点場所の提供などである。 「道の駅」内には、かまどベンチ、マンホールトイレ、発電設備や燃料タンクなども設置している。同時に隣接する消防署や行政と連携し、避難訓練を行うなど、災害に備えのある「道の駅」だ。
宮城-15	かくだ		角田市	県道 272号線	2019年(令和元年)4月にオープンした宮城県15番目の「道の駅」。「道の駅」を含む「かくだスポーツビレッジ」は、陸上競技場、野球場、テニスコート、屋内温水プール、多目的運動場、ゲートボール場のほか、ウォーキングコースや交通公園、バレーボール3面が取れるアリーナ、合宿もできるスポーツ交流館と、スポーツをテーマにいろいろな世代が交流できる角田市の新しい拠点となっている。 「道の駅」のおすすめは、「かくだの味噌ラーメン」。麵は北海道から仕込まれるこだわりの卵麵を使用、スープは豚骨と鶏ガラで煮込んだ本格札幌ラーメンで、「道の駅」の一番人気である。また、角田丸森産牛乳を使用した「牛乳ソフトクリーム」は、季節のフレーバーとミックスの3種類で展開しており、スイーツにアレンジしたりと好評だ。 「角田の梅干し」は、戦後に食料として植えられたとされる梅を、各家庭で保存食のために梅干しが作られており、シソと塩のみで漬け込み、添加物を一切使用せず、昔ながらのすっぱい味が特徴。手作業で三日三晩の土用干しを行い、丁寧に仕上げている。作り手それぞれの感覚が伝統の味を守り続けている。さらに、角田市には日本で唯一の「梅干しマイスター」がいて、技術の伝承にも努めている。 「道の駅」のある角田市は、古くから養蚕などが盛んだったが、高度経済成長期以降、電機メーカー、自動車部品メーカーなどの進出が相次いだ。農業も盛んで、ダイズやウメの栽培でも名高い。また、ロケットのエンジン部分を開発しているJAXA角田宇宙センターがあることから、「道の駅」から車で10分ほどのところに「宇宙」をテーマとした台山公園がある。2t級の静止衛星打ち上げ能力を実現させた、全長49m、直径4mの日本初の「純国産型H-2ロケット実物大模型」、高さ44.9m、建床面積69㎡の展望施設「スペースタワー」、実物大の各種人工衛星の模型やロケットエンジンの実物が展示され、43型ビデオテレビ・マルチスクリーンや写真パネルによって宇宙を説明、解説している「コスモハウス」と3つの施設が整備されている。
宮城-16	硯上の里おがつ (けんじょうのさとおがつ)		石巻市	県道 238号線	2021年(令和3年)4月にオープンした第54回登録の「道の駅」。 硯上(けんじょう)という名称は、旧雄勝町特産の硯(すずり)を生産する硯上山にちなんで名づけられたもの。地域は日本最大の硯の産地で、「道の駅」に隣接する「雄勝硯伝統産業会館」があり、日本最大という156cm×76cm、重量約500kgの硯が展示されているほか、雄勝石を使用した硯や石皿などが展示販売されている。 もう一つの雄勝の名物は海産物で、「道の駅」のおすすめの一つは雄勝産活ホタテである。山からリアス海岸に流れ出す川の水には養分が多く含まれ、プランクトンが豊かな海となっている。そこで育ったホタテは肉厚・プリプリで、身の引き締まった深い味わいは絶品。「道の駅」内の伝八寿司では、ホタテとアナゴが両方味わえる丼が人気。また、食事処の海里では、ムール貝やホタテエビなど具沢山のそばもおすすめ。他にも、雄勝の海を楽しむアクティビティツアー企画・運営する「渚泊station」などのテナントがあり、雄勝を多方面から味わい楽しめるようになっている。 「道の駅」のすぐ目の前は雄勝漁港。天気が良い日はウッドテラスに置かれている木製テーブルや椅子に座り、海を眺めながらひと時を過ごすことができる。

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
宮城-17	おながわ		女川町	国道 398号線	硯上の里おがつと一緒に、2021年(令和3年)4月にオープンした第54回登録の「道の駅」。津波で被災した女川町の商店街を復興させるため、新たに作られた商店街「シーバルビア女川」、テナント型商業施設「地元市場ハマテラス」、「女川町まちなか交流館」、「女川町たびの情報館ぶらっと」一帯を「道の駅」として登録、港町女川再生の中心となることを期待されている。 「道の駅」のおすすめは、女川港で水揚げされた鮮魚介類や水産加工品を豊富に取り揃え、新鮮な食材を使った海鮮丼。新鮮な海鮮は近海のウニやカキ、ホヤ、アワビのほか、マグロ船主直営店による天然まぐろなど生鮮品の買い物もできる。 「道の駅」のある女川町は、宮城県牡鹿郡に属する太平洋沿岸に位置する町で、牡鹿半島に位置しており、町の東側は太平洋に面しており、日本有数の漁港である女川漁港がある。三陸復興国立公園地域に指定されていて、リアス式海岸は天然の良港を形成、カキやホタテガイ、ギンザケなどの養殖漁業が盛んで、金華山沖漁場が近いことから、暖流・寒流の豊富な魚種が数多く扱われる。中でもサンマの水揚げ量は全国でも有数だ。 震災により全壊したJR女川駅は内陸に移動された。また、駅に併設されている町営温浴施設「女川温泉ゆぽっぽ」と、津波で流失した旧JR女川駅舎を模して建設された「女川水産体験館あがいんステーション」を2025年(令和7年)4月に「道の駅おながわ」に追加し、エリアを拡大。更なる賑わいに一役かっている。 「道の駅」内にはポケモンのマンホール蓋が設置されており、「ラプラス」と「キャモメ」が描かれている。
宮城-18	さんさん南三陸		南三陸町	国道 45号線	2021年(令和3年)第54回登録の「道の駅」で、東日本大震災からの復興の象徴的存在「南三陸さんさん商店街」と、震災の教訓と命を学ぶ震災伝承館「南三陸311メモリアル」、観光交流施設「南三陸ポータルセンター」、交通拠点施設「JR志津川駅」を併設している複合的な施設となっている。 「南三陸さんさん商店街」は、サンサンと輝く太陽のように、笑顔とパワーに満ちた南三陸の商店街にしたいというコンセプトのもと、かつての町の中心地で高台の造成地、国道45号線と国道398号線が交差する志津川地区にオープンした。南三陸杉を使用した建物には、飲食店、土産物店、鮮魚店、カフェ・スイーツ店、産直施設など29店舗で構成されている。「道の駅」のおすすめは、「南三陸キラキラ丼」で、その特徴は、四季に応じた4種類の丼が提供されること。春の地元産の春野菜と旬の海産物、夏は南三陸産を中心とした無添加・新鮮なウニ、秋はカツオや鮭、冬はタコや牡蠣といった、季節と店舗によって異なる味覚を楽しむことができる。 スイーツのおすすめは「モアイ最中」。1960年(昭和35年)のチリ地震津波で、旧志津川町内だけで、41名が犠牲となるなど、壊滅的な被害を受けた。この津波の記憶を未来に伝えようと、1991年(平成3年)にチリ人彫刻家に依頼して制作されたモアイが志津川地区の松原公園に設置された。東日本大震災時に流出したが、頭部が発見され、志津川高校の敷地内に移設。その後、イースター島から新たに、眼の入った世界に2体しかないモアイが贈られ、現在はうみべの広場に設置されている。そんなモアイをモチーフとした最中は餡と皮が別々になっているので、詰める作業を楽しむことができ、お土産にも人気。
宮城-19	東松島		東松島市	市道 百合子線 三陸自動車道	2024年(令和6年)第61回登録の、三陸自動車道上り線矢本パーキングエリアに直結する「道の駅」である。 駅の外には「道の駅」のモニュメントが設置されフォトスポットとしても人気。子供が遊べる遊具が屋外、屋内共に設置され天候を気にせず楽しむことができる。 店内はブルーインパルスの格納庫をイメージした内装デザインや什器類を設置し、野菜や、お酒といったお土産品から、ブルーインパルスのグッズやガチャガチャなど珍しい商品も多い。施設2階にある展望テラスからは、ブルーインパルスの飛行訓練や市内を一望することができる。また、観光棟では仮想現実(VR)で「ブルーインパルスの飛行」を360°に広がる臨場感で楽しむことができ、人気を博している。 「道の駅」のおすすめである「東松島のりラーメン」は特産の海苔を麺に練り込み、トッピングには地元産牡蠣と全型海苔1枚がダイナミックで海の香り満点のラーメンで、東松島海を感じる事ができる。「松島ブルー」ソフトクリームはブルーインパルスをイメージした水色のソフトで、爽やかなヨーグルト味が印象的。 「道の駅」のある東松島市は、2005年(平成17年)に桃生郡矢本町と鳴瀬町の合併により発足、宮城県の東部に位置し、東は石巻市、北は美里町、西は松島町と接し、南側は太平洋(松島湾と石巻湾)に面している。農業の中心は水稲であるが、野菜や果物の生産にも力を入れており、イチゴやトマトがさかんに栽培されている。漁業はノリとカキが中心で、ノリは皇室に献上されるほどである。栄養豊富な海で育つカキは、その質の高さから全国の養殖地へ種ガキとして出荷されている。